

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-278542
 (43)Date of publication of application : 06.10.2000

(51)Int.CI. H04N 1/60
 H04N 1/409
 H04N 1/46
 H04N 9/67
 H04N 9/68

(21)Application number : 11-079575

(71)Applicant : MINOLTA CO LTD

(22)Date of filing : 24.03.1999

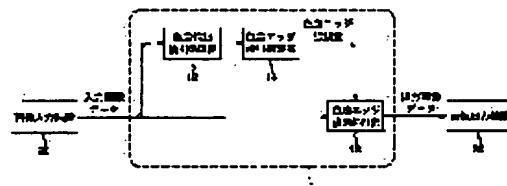
(72)Inventor : HASHIMOTO KEISUKE
 HIROTA YOSHIHIKO

(54) IMAGE PROCESSOR

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To perform natural edge emphasis among colors which do not change so much in lightness or density by extracting chrominance information from color image information, detecting a chrominance edge from the color difference information, calculating the chrominance edge quantity at the chrominance edge and calculating a chrominance emphasis quantity on the basis of the quantity of the chrominance edge.

SOLUTION: When color image data of multitone which are read by a scanner or are stored in a memory of a computer are inputted in an image processor 10, chrominance information is first extracted from a whole or a part of the color image data in a chrominance information extraction part 12. Subsequently, it is decided in a chrominance edge detection processing part 14 whether a part where a gradient of the chrominance information is large, that is, a part where a change in hue is large, exists in the extracted chrominance information or not and a quantity of chrominance edge emphasis is calculated on the basis of the chrominance edge. Then, in a chrominance correction part 16, an edge of an original color image is emphasized on the basis of the calculated quantity of the chrominance edge emphasis.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision
of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office



620000630000278542

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-278542

(P2000-278542A)

(43)公開日 平成12年10月6日 (2000.10.6)

(51)Int.Cl.⁷H 04 N 1/60
1/409
1/46
9/67
9/68

識別記号

103

F I

H 04 N 1/40
9/67
9/68
1/40
1/46

テマコード(参考)

D 5 C 0 6 6
Z 5 C 0 7 7
1 0 3 Z 5 C 0 7 9
1 0 1 D
Z

審査請求 未請求 請求項の数1 OL (全 6 頁)

(21)出願番号

特願平11-79575

(22)出願日

平成11年3月24日 (1999.3.24)

(71)出願人 000006079

ミノルタ株式会社

大阪府大阪市中央区安土町二丁目3番13号
大阪国際ビル

(72)発明者 橋本 圭介

大阪府大阪市中央区安土町二丁目3番13号
大阪国際ビル ミノルタ株式会社内

(72)発明者 廣田 好彦

大阪府大阪市中央区安土町二丁目3番13号
大阪国際ビル ミノルタ株式会社内

(74)代理人 100062144

弁理士 青山 葦 (外2名)

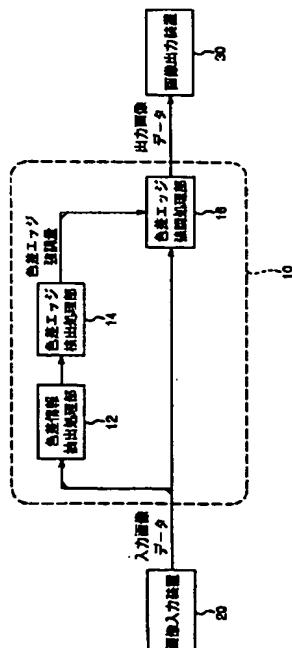
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 画像処理装置

(57)【要約】

【課題】 明度や濃度の変化に乏しい色の間で自然なエッジ強調を行える画像処理装置を提供する。

【解決手段】 所定の画像入力装置から入力されたカラー画像情報を処理して出力する画像処理装置において、入力されたカラー画像情報から色差情報を抽出し、抽出された色差情報から色差エッジを検出し、その色差エッジにおける色差エッジ量を算出し、算出された色差エッジ量に基づき、上記カラー画像情報を強調する。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 所定の画像入力装置から入力されたカラーパンダ情報を処理して出力する画像処理装置であって、上記カラー画像情報から色差情報を抽出する色差情報抽出手段と、
 上記色差情報抽出手段により抽出された色差情報から色差エッジを検出し、該色差エッジにおける色差エッジ量を算出する色差エッジ検出手段と、
 上記色差エッジ検出手段により算出された色差エッジ量に基づき、色差強調量を算出する色差強調量算出手段と、
 上記色差強調量算出手段により算出された色差強調量を用いて上記色差情報を強調補正する色差強調補正手段とを備えたことを特徴とする画像処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、例えばデジタルカラー複写機などに組み込まれる、所定の画像入力装置から入力されたカラー画像情報を補正して出力する画像処理装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来では、例えば原稿読取装置で読み込まれた若しくはコンピュータのメモリに蓄えられたカラー画像情報を表示画面上に出力する場合、あるいは、上記カラー画像情報に基づき感光体を露光して、該感光体に画像を形成しようとする場合に、そのカラー画像情報に対し、明度データ及び／又は濃度データの勾配の高い部分、すなわち近接するデータ間で明度差又は濃度差の大きい部分を強調する明度エッジ強調処理及び／又は濃度エッジ強調処理を施し、特に無彩色成分（例えば黒及び白色成分）のエッジ強調を行うことが知られている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来知られた明度エッジ強調及び濃度エッジ強調処理では、無彩色成分のデータのエッジ強調に関して顕著な効果が得られるものの、例えば緑と青のように、色相は変化するものの明度や濃度の変化が少ない色の間に、エッジ強調の効果が現れにくく、両色の境目がくっきりとした画像が得られなかつた。そのため、緑色の下地上の青色文字など、色下地上の色文字に対してエッジ強調処理を行った場合には、黒などの無彩色成分のデータからなる文字に比べて、その文字品位が低くなるという問題があつた。また、従来の明度エッジ強調処理では、画像の比較的暗い部分について明度エッジ強調を行つた場合に、色の明るさが変化する可能性があり、画像が不自然になることがあつた。

【0004】本発明は、上記技術的課題に鑑みてなされたもので、明度や濃度の変化に乏しい色の間で自然なエッジ強調を行える画像処理装置を提供することを目的とする。

【0005】

2

【課題を解決するための手段】本発明は、所定の画像入力装置から入力されたカラー画像情報を処理して出力する画像処理装置であつて、上記カラー画像情報から色差情報を抽出する色差情報抽出手段と、該色差情報抽出手段により抽出された色差情報から色差エッジを検出し、該色差エッジにおける色差エッジ量を算出する色差エッジ検出手段と、該色差エッジ検出手段により算出された色差エッジ量に基づき、色差強調量を算出する色差強調量算出手段と、該色差強調量算出手段により算出された色差強調量を用いて上記色差情報を強調補正する色差強調補正手段とを備えたことを特徴としたものである。

10

20

30

40

50

【0006】かかる構成を備えたことにより、外部から入力されたカラー画像情報から抽出された色差情報において、勾配の高い部分、すなわち色相の変化が大きい部分（いわゆる色差エッジ）を検出した後に、その部分から色差強調量を算出し、算出された色差強調量に基づきそれぞれの色差データを補正するようにして、色差エッジを強調することが可能となる。その結果、微妙な色の変化が強調され、色の境目がはっきりとするため、例えば色下地上の色文字についてもエッジが強調されて、文字品位が向上する。また、画像の比較的暗い部分については、色の明るさを変化させることなくエッジ強調を行い、自然な画像を得ることができる。

【0007】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態について、添付図面を参照しながら説明する。図1は、本発明の実施の形態に係る画像処理装置の構成の一部を示すブロック図である。この画像処理装置10は、例えばデジタルカラー複写機などに組み込まれて、原稿読取装置（所謂スキャナ）やコンピュータ等の画像入力装置20から出力されたデジタルカラー画像情報を受け、そのデジタルカラー画像情報に対して所定の色差エッジ強調処理を施した上で、画像出力装置30へ出力するもので、その構成に、色差情報抽出処理部12と色差エッジ検出処理部14と色差補正部16とを備えている。

【0008】かかる構成を備えた画像処理装置10では、スキャナで読み込まれた若しくはコンピュータのメモリに蓄えられた多階調のカラー画像データが入力されると、まず、上記色差情報抽出処理部12において、上記カラー画像データの全体あるいはその一部から色差情報が抽出される。続いて、上記色差エッジ検出処理部14では、抽出された色差情報のなかに、色差情報の勾配の高い部分、すなわち色相の変化が大きい部分（以下、色差エッジという）が存在するか否かが判定され、色差エッジが存在する場合には、その色差エッジに基づき、色差強調量が算出される。そして、上記色差補正部16において、算出された色差強調量に基づいて、元のカラー画像データがエッジ強調される。

【0009】図2は、上記画像処理装置10において行われるデータ処理に関するブロック図である。この画像

3

処理装置10では、まず、HVC変換(色空間変換)処理部21において、入力されたRGB画像データ(図2中のR I, G I, B I)の全体若しくはその一部が、明度データY及び色差データCr, Cbに変換される。HVC変換後の明度データY及び色差データCr, Cbは、それぞれ、明度エッジ判定部22及び色差エッジ判定部24r, 24bに送られる。

【0010】上記明度エッジ判定部22では、従来技術で知られるように、明度データYから明度エッジ量EYが算出される。算出された明度エッジ量EYは、明度強調量算出部23へ送られ、この明度エッジ量EYに基づき、明度強調量BYが求められる。尚、この明度強調量算出部23では、LUT(ルックアップテーブル)用のRAMで変換して、明度強調量BYを求めるようにした。

【0011】また、一方、上記色差エッジ検出部24r, 24bでは、HVC変換処理部21より送られた色差データCr, Cbにおけるエッジが検出される。この場合において、色差エッジの存在が確認されると、例えば 5×5 マトリクスからなる1次微分フィルタを用いたエッジ判定回路を通じて、各エッジにおける色差エッジ量DCr, DCbが算出される。

【0012】統いて、上記色差エッジ検出部24r, 24bにおいて算出された色差エッジ量DCr, DCbは、色差エッジ判定部25に送られ、これら色差エッジ量DCr, DCbに基づき、全色差エッジ量EC(=DCr+DCb)が求められる。この実施の形態では、色差エッジ量DCr, DCbのうちの大きい方を全色差エッジ量ECとする。尚、これに限定されることなく、全色差エッジ量ECとしては、色差エッジ量DCr及びDCbの和を用いてもよい。更に、色差強調量算出部26において、上記エッジ判定部25により求められた全色差エッジ量ECから、色差強調量BCr, BCbが算出される。この実施の形態では、上記明度強調量算出部23における場合と同様に、LUT用のRAMで変換して算出するようにした。

【0013】そして、色差補正部27において、算出された色差強調量BCr, BCb(=Q)とHVC変換後の色差データCr, Cb(=P)とが加算演算される。その結果、色差エッジ強調された色差データCro, Cbo(=P+Q)が得られる。また、他方、明度強調量BY(=Q)と前述したHVC変換後の明度データY(=P)とを加算演算することにより、明度エッジ強調された明度データYO(=P+Q)が得られる。最後に、前述したようにエッジ強調処理されて得られた明度データYO及び色差データCro, Cboは、逆HVC変換処理部28において、カラー画像データRO, GO, BOに変換され、画像出力装置30へ出力される。

【0014】尚、この実施の形態では、画像入力装置から入力された色差データCr, Cbを補正してエッジ強調

4

するために、色差強調量算出部34において算出された色差強調量BCr, BCbを色差データCr, Cbに加算するようにしたが、これに限定されることはなく、例えば、色差補正部において、色差強調量算出部34において算出された色差強調量BCr, BCb(=Q)をHVC変換後の色差データCr, Cb(=P)に乗算してもよい。また別の実施の形態では、色差強調量算出部34において、BCr, BCbに2つの係数b, cを乗算して、4つの色差強調量BCrb, BCbb(=Q), BCrc, BCbc(=R)を算出した上で、色差補正部において、HVC変換後の色差データCr, CbにBCrc, BCbcを乗算し、更に、BCrb, BCbbを加算して、色差データCro, Cbo(P×R+Q)を求めるようにもよい。

【0015】このように、本発明に係る画像処理装置では、外部から入力されたデジタルカラー画像情報から抽出された色差情報から色差エッジを検出し、その色差エッジから色差強調量を算出し、算出された色差強調量に基づきそれぞれの色差データを補正するようにして、色差エッジを強調することができる。その結果、微妙な色の変化が強調され、色の境目がはっきりとするため、例えば色下地上の色文字についてもエッジが強調されて、文字品位が向上する。また、画像の比較的暗い部分について、色の明るさを変化させることなくエッジ強調を行い、自然な画像を得ることができる。

【0016】図3は、上記色差エッジ強調処理についてのフローチャートである。まず、ステップ#21では、画像入力装置から得られたRGBデータを、HVC変換処理で、明度データY及び色差データCr, Cbに変換する。統いて、色差データCrについて、色差エッジが存在するか否かを判定する(#22)。色差エッジが存在すると判定された場合には、ステップ#23において、色差データCrに対する色差エッジ量DCrを算出し、その後、ステップ#25へ進む。他方、色差エッジが存在しないと判定された場合には、ステップ#24において色差エッジ量DCrを0と設定した後、ステップ#25へ進む。

【0017】色差データCrに引き続き、色差データCbについて、色差エッジが存在するか否かを判定する(#25)。色差エッジが存在すると判定された場合には、ステップ#26において、色差データCbに対する色差エッジ量DCbを算出し、その後、ステップ#28へ進む。他方、色差エッジが存在しないと判定された場合には、ステップ#27において色差エッジ量DCbを0と設定した後、ステップ#28へ進む。ステップ#28では、算出された色差エッジ量DCr, DCbから全色差エッジ量ECを算出する。次に、算出された全色差エッジ量ECからエッジ強調量BCr, BCbを算出する(#29)。

【0018】また、ステップ#30では、明度データY

5

について、明度エッジが存在するか否かを判定する。明度エッジが存在すると判定された場合には、ステップ#31において、明度データYに対する強調量BYを算出し、その後、ステップ#33へ進む。また、一方、明度エッジが存在しないと判定された場合には、ステップ#32において強調量BYを0と設定した後、ステップ#33へ進む。続いて、ステップ#33では、算出された強調量BY、BCr、BCbに基づき、明度データY及び色差データCr、Cbに対して強調処理を行う。そして、ステップ#34において、エッジ強調処理された明度データYO及び色差データCro、Cbを、逆HVC変換処理によりRGBデータに再変換する。

【0019】このように、本発明に係る画像処理装置10では、入力された画素データが、それぞれ、明度情報についてエッジ強調処理を施されるとともに、色差情報についてもエッジ強調処理を施されるので、例えば緑と青のように色相は変化するものの明度や濃度の変化が少ない色の間でも、両色の境目がくっきりとした画像が得られる。

【0020】尚、本発明は、例示された実施の形態に限定されるものでなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲において、種々の改良及び設計上の変更が可能であることは言うまでもない。

【0021】

【発明の効果】以上の説明から明らかのように、本発明

6

によれば、外部から入力されたカラー画像情報から色差エッジを検出し、該色差エッジにおける色差エッジ量を算出して、それぞれの色差データを補正するによって、色差エッジを強調するような処理を加えることができる。その結果、微妙な色の変化が強調され、色の境目がはっきりとするため、例えば色下地上の色文字についてもエッジが強調されて、文字品位が向上する。また、画像の比較的暗い部分について、色の明るさを変化させることなくエッジ強調を行い、自然な画像を得ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の実施の形態に係る画像処理装置の構成を示すブロック図である。

【図2】 上記画像処理装置におけるデータ処理に関するブロック図である。

【図3】 上記画像処理装置におけるエッジ強調についてのフローチャートである。

【符号の説明】

10…画像処理装置

12…色差情報抽出処理部

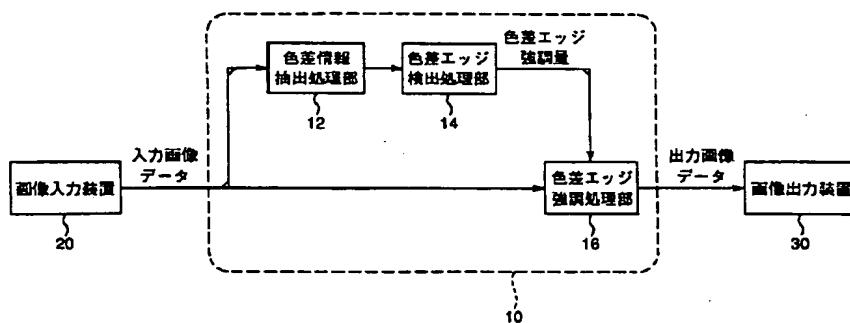
14…色差エッジ検出処理部

16…色差補正部

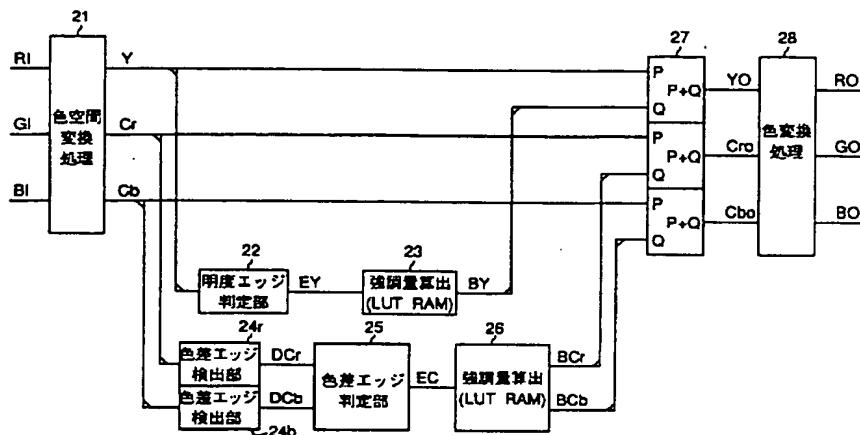
20…画像入力装置

30…画像出力装置

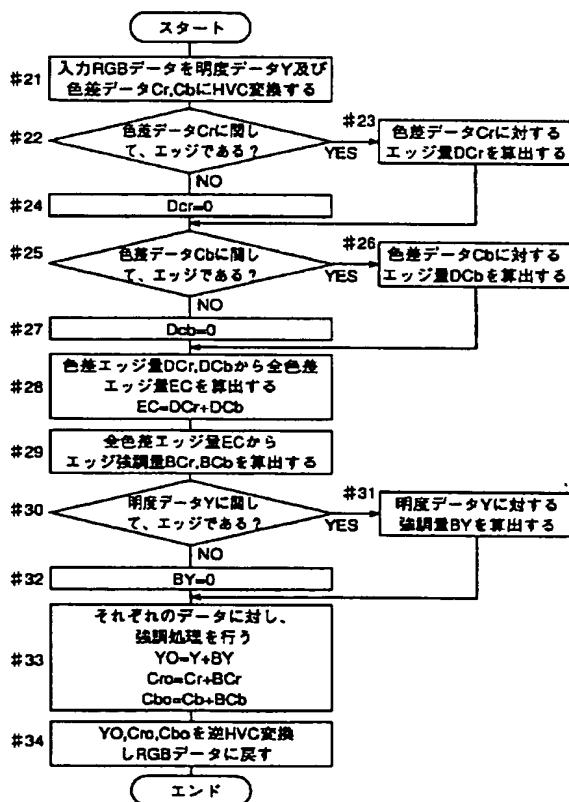
【図1】



【図2】



【図3】



9

フロントページの続き

Fターム(参考) 5C066 AA03 AA11 BA20 CA09 EA11
EC02 EE03 EF03 GA01 GA02
GA05 GB01 HA02 JA01 KA08
KD06 KE02 KE03 KE04 KE16
KL01 LA02
5C077 LL19 MP08 PP09 PP31 PP32
PP35 PP37 PP47 PP68 PQ23
TT06 10
5C079 HB01 HB06 HB11 LA01 LA06
LA15 LB00 MA05 NA06 PA02